

平和に感謝

今年の夏は、富山大空襲が起きてから七十
 年となる。戦争の辛さ、恐ろしさは、実際に
 体験しなくては分からないものかもしれない。
 そのために、特に私にちのようは若い世代は、
 戦争に対する興味や関心が薄れてきているの
 ではないか。
 だから、この記事にあるように、授業とし
 て空襲について学んだり、自ら調べ学習を行
 うにりする事は、これからも平和が続くに
 めのよい機会であると思う。

富山大空襲は、一九四五（昭和二十）年八
 月一日から二日にかけて、アメリカ軍が富山
 市に対して行つた空襲である。北陸銀行や北
 日本新聞社を含め、市街地のほとんどが消失
 するという甚大な被害を及ぼした。生き残り
 た人がいたのは奇跡だと言われるほど、悲惨
 な出来事であつたにそうだ。この大空襲があつ
 た日と同じ八月一日に納涼花火大会が行われ
 ている。私は、その大会で見る花火が色鮮やか

書き出しは「マスあける」。
 改行の場合も同じく、書き出しは「マスあける」。
 「。」などの符号は原則として「」のマスに入れる。

かですとも美しいので、今までは鑑賞を目的として打ち上げられているものだと思っ
 た。しかし、この花火大会は、本来、空襲犠
 牲者への鎮魂と平和を願って始まったものだ
 と知った。来年からは、このことを忘れ
 ないで花火を見上げようと思う。

また、私はこの記事を読んで、以前テレビ
 で戦争特集の番組を見たことを思い出した。
 今年は戦後七十年ということ、テレビでも
 新聞でも戦争に関わる話題が、多々採り上げら

れている。その中で語られる、戦時中の人々
 の生活は、大変なものだった。電気、水道、
 が入はもららん食料も不足。空襲によつて住
 お場所を失い、不衛生な状態ではいければ
 らない人々。

戦争を経験してはいない私には、毎日食事が
 ができ、冷暖房のある快適な空間で、電気機
 器を使って便利に過ごすことを当たり前前のこ
 とだと思っ
 ている。加えて、好き嫌いを
 食べ物を残したり、電気を付けに
 まま、水を

書き出しは二マスあける。

改行の場合も同じく、書き出しは二マスあける。

、。』などの符号は原則として二つのマスに入れる。

出したままにしたりすることさえある。当時の人々が見たら、とう感じるのだろうか。私には、今のこの生活ができることを当たり前だと考えず、感謝の気持ちを持ちたい。ほらはい。

また、戦時中は大勢の小さな子ども達が学童疎開で親から離され、そのまま再会することができないか？にともあ？にという。今は平和は富山だが、七十年前は炎に包まれ、多くの人が命を落としたり。親を失って孤児とな

った子供たちもたくさんいた。

人間は一人では生きていくことができない。必ず周囲の支えが必要だ。その中でも一番身近にいる家族の支えや協力がある。私には成長してきた。家族がいてくれることは当たり前前のことだと思ってる。戦時中の話を聞くと、人と人とのつながりや思いやりのバが生む「命」のありがたさを改めて感じた。現在、私たちは平和を願って花火を打ち上げたり、灯籠を流したり、黙禱を捧げたりす

書き出しは一マスあける。

改行の場合も同じく、書き出しは一マスあける。

「。」などの符号は原則として二つのマスに入れる。

る。せくは、に方々のご冥福を祈るとともに、
「今」を生き延びていることに感謝し続けること
も大切だと思ふ。

日本は、憲法第九条の平和主義によつて、
二度と戦争はしないと定めている。法律に従
うことは当然であるが、私達一人一人が戦争
に関心をもち、意識をしていかねばなら
ない。これから先、日本の将来を担つていく
世代が再び争いを起こさばいというバ構えが
必要だ。

戦争について学ぶにび、身の回りのいろい
ろなものにありがたみを感じる。普段は何気
なく口にしていゝ「ありがとう」という言葉
に、たくさんの感謝の気持ちを込めて、周り
の人たちにしつかりと伝えていきたいと思ふ。
そして、これから授業等で戦争について学ぶ
ときにも、今回新聞記事などを通して感じに
平和の意義についても考えていきたいと思ふ。
今ある平和に感謝しながら。

書き出しは一マスあける。
改行の場合も同じく、書き出しは一マスあける。
「、」などの符号は原則として二つのマスに入れる。